

事例から学ぶ！！

“できる”を引き出す・広げる支援

～その子に適した構造化を使って～

今回のテーマは・・・

待つこと

について



事例2 待つことが苦手





待つことが苦手で、活動の合間や
移動前の待ち時間で、怒ったり
泣いたりすることが多いです…



チェックポイント

- ①どのようにして「待つこと」を示していますか？
- ②どのくらいの時間なら落ち着いて待てますか？
- ③「待つ」間に何かをして過ごせる設定になっていますか？

アセスメント
してみましょう！



- ①口頭で指示した後に、指導者が手を繋いで一緒に座り待つことが分かるようにしている。
- ②長くても1～2分程度しか待てない。
- ③待ち時間は特に何かをすることは無い。
座って待っていてほしい。



**アセスメントの
結果から
考えられること！**



諏訪

本人は「待つこと(どのくらい?どのように?等)」の見通しが持てていない可能性が高い

- ・スケジュール提示が活動内容(ユニット名など)と活動場所だとすると、本人は時間になったらすぐそこへ行けると思ってしまう。
→待つ必要があるなら、待つこともスケジュールに示す
- ・待つことが苦手な子を先に誘導すると、待ち時間が増えてイライラの要因に。切り替えが苦手で移動に時間がかかる子から移動を促し、待機が苦手な子はギリギリに誘導する。
- ・何もせずに「待つ」ことは難しい…。待ち時間に「すること」の提供を。好きな活動で時間調整＝結果的に「待つ」ことに！



「待つこと」を構造化する

- ・待ってほしい場面(教室移動時など)では, その活動と活動の間に「待つこと」をスケジュールに示す
- ・スケジュールに「待つこと」を示す際は, 「どこで」待つのかも提示する。
- ・可能であれば, 待ち時間の長さや何をして待つのかも示すようにする。
- ・切り替えに時間がかかる人から待機場所へ移動し, 待つことが苦手な人は待ち時間が短くなるように待機場所への誘導を行う。



ただし！ **大前提**

自立を考えるのであれば、
どこに移動するのか 分かって
一人で間違えずに移動
できるのが一番良い！



- 「待つこと」もスケジュールに入れる。
でも！ 待たせることは大人の都合で
あることを忘れずに！
- 待ち時間（長さ）の調整や
待ち時間の活動の検討を！





皆さんいかがでしたか？

子ども達が「待つ」場面は多いと思いますが
「待つ」という時間も、きちんと明示しておく、
構造化することが大切なんですね。

次回は「切り替えること」について、お伝え
いたします！お楽しみに♪